



①内野関屋・大門跡(うちのせきや・おおもんあと)
内野関屋は内野宿の西の入り口となっています。



②老松神社(おいまつじんじゃ)
内野宿の町並みの南端にあります。社殿によると、鎌倉時代中期の宝治2年(1248)当地が太宰府の神領であったという縁により、菅公の神霊を請して小宮山に社を営んだのがこの神社の草創です。本殿は木造の流造形式を採り、境内には親子の狛犬や恵比須像、牛などの石造物が点在し、銀杏などの大木が茂っています。



③西構口跡(にしかまえぐち)
構口は宿場の出入口を固める役割を担っていました。内野宿の南北の入口には道路と直角に石垣を組み、瓦を載せた短い塀が設けられていたようです。方位は南北ですが、京都、大阪、上方や江戸方面に近い方を「東」、遠い方(長崎方面)を「西」といいます。



④伊藤家(いとうけ)
酒屋があったところです。



⑤恵美須屋(えびすや)
旅籠があったところです。
当時の宿場には身分の違いによって泊る宿舎の種類が分けられていました。大名が泊る本陣と呼ばれる御茶屋、大名や重臣、家来が泊った脇本陣と呼ばれる中茶屋と下茶屋、そして、足軽・槍持などが泊る旅籠がありました。



⑥大黒屋(だいこくや)
旅籠があったところです。



⑦小倉屋(こくらや)
小倉屋と号し、江戸後期以来この地に居住していた地主で、質屋でした。主屋2階に明治13年(1880)の建築と記された棟札が残っています。明治時代前半の姿を良く留める町屋建築です。



⑧内野宿展示館/肥前屋(うちのしゅくてんじかん/ひぜんや)
肥前屋と号した旅籠があったところです。現在は内野宿展示館になっており、大型ビジョンによる長崎街道の紹介や内野宿の資料を展示しています。
【見学科】高校生以上100円/小中学生50円
【開館時間】10:00～17:00 【定休日】火・水曜(祝日を除く)



⑨長崎屋(ながさきや)
江戸時代、脇本陣(下茶屋)であったといわれ、シーボルトが休息したとの伝承が残されています。現在の建物は明治後期の建築です。長崎屋では当時の旅人に提供していた郷土料理を再現しています(要予約)。無料休憩所としてもお気軽にお立ち寄りください。詳しくはTEL0948-72-5581までお問い合わせください。



⑩博多屋(はかたや)
旅籠があったところです。



⑪三辻屋(みつじや)
酒屋があったところです。



⑫人馬継所跡/角屋(じんばつぎしょあと/かどや)
宿場業務の宿役人として運輸部門に年寄りと問屋がいました。人足や馬を提供する施設が人馬継所で問屋場とも呼ばれ、その宿役人が問屋です。角屋前には太い丸柱が幾本も並んでいて、明治初期まで伯楽の牛馬繋ぎでもありました。



薩摩屋(さつまや)
薩摩屋は内野宿の脇本陣(中茶屋)を務めた家で、百富氏が代々茶屋の守の任にあたっていました。島原藩御用の物資の運送業に携わっていたといえます。



⑬正円寺(しょうえんじ)
内野の中心部に位置します。戦国時代、大友宗麟の異母弟八郎は家督争いに巻き込まれたため、天文19年(1550)当地に潜みました。明暦2年(1656)に内野宿に一寺をひらき、本尊阿弥陀如来像の下付を受け浄土真宗本願寺に帰して正円寺と称するようになりました。



⑭麴屋(こうじや)
お酒や味噌、醤油などをつくるための麴を製造していたところです。



⑮松浦川(まつうらがわ)



⑯若松屋(わかまつや)
旅籠があったところです。



⑰東構口跡(ひがしかまえぐちあと)
構口は宿場の出入口を固める役割を担っていました。内野宿の南北の入口には道路と直角に石垣を組み、瓦を載せた短い塀が設けられていたようです。方位は南北ですが、京都・大阪、上方や江戸方面に近い方を「東」、遠い方(長崎方面)を「西」といいます。塀石垣の一部を残すのみでその姿は留めていません。





⑩藤井政太郎君頌徳碑(ふじいまさたろうくんしょうとくひ)
内野小学校の横に、明治時代の政治家藤井政太郎の業績を顕彰する碑が建てられています。安政2年(1855)内野村に生まれ、郡会委員や内野村長を歴任しました。



⑪内野葛(うちのくず)
幕府献上御用であった内野葛は、筑前内野の名品として有名でした。写真は旧製造販売所の荒巻家。



⑫JR筑前内野駅(ジェイアールちくぜんうちのえき)
筑前内野駅(ちくぜんうちのえき)は、九州旅客鉄道(JR九州)筑豊本線(原田線)の駅です。2000年(平成12年)まで相対式ホーム2面2線で列車交換が可能でしたが、現在は原田駅側に向かって左側のホームと線路のみ使われており、反対ホーム側の線路は撤去されています。ログハウス風の小さな待合室があります。



⑬えびす碑(えびすひ)
旧長崎街道から太宰府へ至る「さいふ道」に分かれる三叉路に石製の道標「太宰府天満宮米山越道」と恵比須像が残されています。内野宿の太宰府天満宮信仰の中、宿場の繁栄と旅人の道中安全を祈願して祀られたと思われます。



⑭野々実会(ののみかい)
地元・内野地域で採れる野菜を使用した商品の開発、製造を行っています。“より安心でおいしいものを届けたい”との思いから材料となる野菜は無農薬で育てています。商品にはほとんど砂糖を使用せず、麹菌を醗酵させることにより体に優しい甘さを実現しています。



⑮宗賢寺(そうけんじ)
内野宿を見おろす小高い丘の上に建つ名刹です。境内には内野宿建設・冷水峠の開削をおこなった内野太郎左衛門(うちのたろうざえもん)の墓があります。



⑯三尺坊秋葉権現(さんしゃくぼうあきばごんげん)
内野宿では延宝七年(1679年)120戸余焼失等、数度の大火災がありました。宗賢寺第六代和尚は、明和三年(1766年)遠江の国から火除け神三尺坊秋葉大権現を勧請(かんじょう)して祀り、祭祀を現在も行っています。万年願として12月24日は麴でできた食物を食べない「麴断ち」が今も内野の人に守り伝えられています。



⑰磐石橋(ばんじゃくきょう)
小路より宗賢寺に向かう道(現在のJR線沿いの道)において、工事掘削時に石橋「磐石橋」が検出されました。石橋には「磐石橋 元文元年(1736)造架」という銘文が刻まれていました。磐石橋は西側から流れてくる小川の上に架けられていましたが、本来の位置に留めているかは不明です。



⑱庄屋屋敷跡(しょうややしきあと)
庄屋・山内家の屋敷跡です。現在は内野宿見学者駐車場になっています。井戸はそのまま残されており、手漕ぎのポンプが新しく取り付けられています。



⑲御茶屋跡/本陣(おちゃやあと/ほんじん)
「本陣」とは、参勤交代の大名や長崎奉行が公用に利用する宿舎のことです。本陣跡は内野宿の街道筋から少し西に離れた所にあります。現在は水田となっています。本陣建物の一部が馬敷にある西光寺に移築されています。



⑳代官所跡(だいかんしょあと)
本陣跡と道を挟んで反対側の畑の向こうに内野宿代官所跡の看板があります。代官所には藩士から任命された代官が宿場関係の政務をとっていたようです。慶長十七年(1912)黒田節で有名な母里太兵衛(毛利但馬守)が最初に内野の代官に任命され内野の建設にあたりました。



㉑さいふ道/スダワラ越(さいふみち/すだわらごえ)
内野から米の山峠を越えて太宰府へ抜けるルートです。かつてはこの道を通って天満宮詣でに出かけました。



㉒猿田彦太神の石碑
猿田彦(さるたひこ)は神を導みちびく者として道祖神に例たとえられることがあります。旅人の道中安全を祈願して祀られています。



㉓小路の薬師堂(福部神社)
大いちょうの横に小路薬師堂があり、内部には木造の薬師如来像、十二神将像や「福部神社」と刻まれた石碑があります。福部(ふくべ)とはひょうたん(瓢箪)の古語のことで、災厄や難を除ける開運につながる霊力や御利益があるといします。太宰府天満宮のひょうたん厄除け祈願も有名ですし、境内本殿裏に摂社として福部神社も祀られています。



㉔大いちょう
谷から吹き降ろされる風を受け傾いた形になり大変珍しい樹形をしています。かつては雌の大銀杏もあり、夫婦銀杏と呼ばれていました。江戸時代の本陣絵図からその位置がよくわかり、当時から内野宿の象徴であったと思われます。樹齢約400年、樹高34.1メートル、幹周り7.6メートル、平成16年2月18日に福岡県天然記念物指定を受けました。



㉕古いハゼの木



㉖古い山桜



㉗古い柿の木

